

共同研究 「学園ミュージアムを考える」 中間報告

上田 富士子

京都文教大学人間学研究所共同研究プロジェクトとして「学園ミュージアムを考える」の研究会在2003年7月に発足した。中村博幸（臨床心理学 教授）、上田富士子（文化人類学科 教授）を研究代表者とする、共同研究者10名よりなる共同研究プロジェクトである。研究期間は2003年7月より2006年3月の予定である。ここに本研究会の目的および2003年度活動状況、2004年度活動予定について報告する。

研究の目的：本研究会は、従来の大学博物館の考え方を一歩進め、京都文教学園100年の歴史の記憶と文化資産が集積する場として本学園そのものをひとつのミュージアムとして捉える新しい学園ミュージアムの可能性について研究することを目的とする。具体的には、1)本学園における文化資源(文化資産、人的資産など)のフィールドワークとデータベースの作成、2)ミュージアム・プロジェクトを介した学園全体のネットワークの形成、3)学園の文化資産を軸とした新世代型ミュージアムの可能性をめぐる研究を行なう予定である。

2003年度活動状況

(1) 一般講演会を開催：

テーマ：「世界の博物館の現在」

講師：吉田憲司 国立民族学博物館教授

日時：2004年3月11日（木） 18:00～20:00

(2) 本研究関係文献収集：

『月刊ミュゼ』11号～62号（ミュージアムの専門誌、アム・プロダクション 1995年～2004年）

『大学博物館』 西野嘉章 東京大学出版会 1996年

『地域博物館への提言』日本展示学会（編）ぎょうせい 2001年

『学校博物館百景』 桐原総一 崙書房出版 2003年

等、90冊の文献の収集を行った。

2004年度活動予定：

(1) 研究会は月1回（第4木曜日）の予定で開催する。

4月の研究会は22日（木）、「地域まるとミュージアムの試み」というテーマで、橋本和也 文化人類学科教授の研究発表が行われた。

(2) 「(人と人をつなぐ)地域まるとミュージアム」プロジェクト(研究代表者：橋本和也、科研助成)や「ミュージアム・ディレクター型学芸員養成のための博物館学講座カリキュラム研究」プロジェクト(研究代表者：中村博幸、全国大学博物館学講座協議会西日本部会助成)と共同研究を行う予定である。